



うえまつ ようすけ
上松 陽助
(大正三年生まれ)

事績

上松安之助の長男として生まれ、岐阜中学校、第八高等学校を経て東京帝国大学法学部政治学科に学び、昭和十六年三月卒業、日鉄鉱業株式会社に就職、北海道の倶知安鉱業所に勤務した。昭和十九年二月応召、内地勤務の後、昭和二十年八月召集解除、昭和二十年十月日鉄鉱業株式会社を退職し帰郷、農業を営む。昭和二十二年六月、雑貨を扱う常盤産業株式会社を設立し代表取締役社長に就任、昭和二十三年三月、当時の東岐阜市長に請われて若干三十三歳にして岐阜市経済部長に就任し、地方自治の担い手としての第一歩を踏み出した。以来、企業部長、民生部長、農林部長、民生局長等の要職を歴任し、昭和四十二年十一月、卓越した行政手腕を買われて収入役に選任され、その重責を果たした。

昭和四十五年九月、松尾岐阜市長の後を引き継ぎ岐阜市長に就任、以来六年余にわたり「対話の市政」を標榜して、高齢者福祉施設や休日診療所の開設、下水処理場、汚水処理場、塵埃処理場等の施設整備、岐阜市中央卸売市場の移転など山積した重要事業を強い信念に基づいて推進し、県都にふさわしい都市づくりに邁進した。

昭和五十二年二月、岐阜市長の実績が高く評価され、県民の期待と信頼を背負って岐阜県知事選挙に立候補し、第四十四代知事に就任、以来三期十二年の長きにわたり国際化、情報化、高齢化といった激しい社会変化の中で、常に時代を先取りしながら多様化する県民のニーズに着実に対応してきた。

氏は、「実行の県政」を標榜し、その指針として「みどりの連帯社会」を築くことを基本理念とした「岐阜県第三次総合計画」を昭和五十三年策定した。「みどり」は、豊かな自然のほか、安全、平和、希望といったイメージを有しており、この計画では、県土、環境、県民の安全が最高に守られ平和で公平で希望に満ちた社会を、県民の総参加と連帯の中で着実に築いていくことを目標とした。氏の県政十二年間はこの理念が貫かれた。

昭和五十九年には、「岐阜県第四次総合計画」を策定した。第三次総合計画策定後、県政は長年の懸案であった各種の大規模プロジェクトが実行の緒につくなど、着実な歩みを続けてきたが、その後の社会経済情勢や県民の意識の変化に的確に対応するとともに、高齢化、国際化などの新しい潮流を踏まえて、二十一世紀へ向けて県勢の一層の活性化を図る必要性から、「暮らしよい岐阜県」を形成するため、人生八十年時代への対応と魅力ある郷土づくりを目標とした。

氏が軌道に乗せた主なプロジェクト等を、第四次総合計画の五本の柱に合わせて列記してみると次のとおりである。

[安全な県土の基盤づくり]

- ・一般道路交通網の整備
- ・東海北陸自動車道の建設・推進
- ・岐阜駅周辺鉄道高架事業の推進
- ・第三セクター鉄道の建設・運行
- ・徳山ダム・阿木川ダム・味噌川ダム・長良川河口堰等の建設推進
- ・治水事業・治山事業、たん水防除事業の推進

[たくましく豊かな人づくり]

- ・東濃西部研究学園都市構想の推進

- ・岐阜メモリアルセンターの建設
- ・岐阜県美術館の建設
- ・県立高等学校の新設 十校
- ・県立特殊教育学校の整備 十校
- ・岐阜大学の移転

[快適な生活環境づくり]

- ・国立木曽三川公園の整備
- ・養老公園・可児公園の整備
- ・木曽川右岸流域下水道の整備

[生きがいある健康な社会づくり]

- ・県立病院の整備
- ・高齢者福祉施設の整備 九十三施設
- ・障がい者福祉施設の整備 二十五施設
- ・児童福祉施設の整備 二百十施設
- ・大規模年金保養基地の整備
- ・県立こどもの国の整備
- ・高等技能専門校の整備
- ・勤労青少年・婦人福祉施設の整備 十施設

[活力ある産業の基盤づくり]

- ・テクノパークの建設
- ・大規模林業圏の開発
- ・西濃用水の建設
- ・飛騨東部地域の農業開発
- ・国営かんがい排水事業の推進
- ・木曽川右岸用水事業の推進
- ・広域営農団地農道の整備
- ・岐阜流通業務団地の整備

以上のほか、昭和五十七年の提唱から足掛け七年の歳月をかけて準備した「ぎふ中部未来博覧会」(未来博88)を、昭和六十三年七月八日から九月十八日までの七十三日間、岐阜市長良川畔で開催した。この未来博88を本県飛躍の起爆剤と位置付け、「県土まるごとパビリオン」との発想の下に、県下九十九市町村の日の設定により、それぞれ趣向をこらした企画でアピールするなど県民総参加で盛り上げた。未来博88は、県民相互の大きな連帯感を生み、また、動員目標の二百五十万人を大きく上回る四百七万人の観客を集め、内容、観客動員、収支とも際立った成果を収め、内外から日本一の博覧会との高い評価を受けた。また、七月二十二日には、日本で初めてコンピュータとレーザー光線を駆使した野外シンセサイザー音楽「トミタ・サウンドクラウド・イン長良川」を開催して世界中から注目を集めた。

さらに氏は、今日の地方における急速な国際化を予測し、いち早く国際理解、国際交流に対する県民意識の高揚を図るため、海外岐阜県人会の育成、県費留学生制度の発足、語学指導に従事する外国青年招致事業等の事業を手がけるとともに、昭和六十一年二月「岐阜県国際交流促進基本計画」を他県に先駆けて策定し、体系的、長期的に国際化を推進する礎を築いた。昭和六十三年六月には、岐阜県と中国江西省の友好提携を実現し、これに基づいて教育・文化・経済等多方面で活発な交流事業が展開されているところである。

また、県職員の海外駐在、国際交流センターの設置など「世界に開かれた岐阜県」を内外に印象づけ、県民一人ひとりの国際化に対する意識を高めるため幅広い施策を展開した。

氏は、清潔、公正そして実行という政治姿勢を終始一貫保持し、冷静な思考力と卓越した指導力、そして深い郷土愛のもとに「地方の時代」に先鞭をつけ、県勢の発展に一時代を画す功績をあげた。